

信州経済

廃棄物の分別装置 製造販売

廃棄物の処理装置を開発し製造販売している。さまざまな素材の飲料の容器を分別する装置や、鉄くずを選別する装置が主力。東日本大震災の被災地で発生したがれきの処理を手掛ける東北地方の廃棄物処理業者などから受注が相次いでいる。

代表的な製品は、飲料容器の

挑む

県内企業

選別装置。2006年にアルミ缶とスチール缶を分別する装置(90万円)を発売。幅35センチ、長さ33センチのベルトコンベヤーの片端に強力な磁石があり、磁力でスチール缶だけを引き寄せて分別する。さらに、ベルト上を流れるペットボトルとアルミ缶を強風で吹き飛ばし、残ったスチール缶とガラス瓶を磁石でさ

エーイーエム (上田市)



加藤嘉幸社長

【エーイーエム】1996年設立。資本金1000万円。従業員8人。2011年12月期の売上高は1億円余。



エーイーエムが製造している飲料容器の選別装置。震災後、廃棄物の処理装置の販売が伸びている＝上田市

に分別する機種(120万円)も08年に投入している。昨年夏以降、震災被災地向けに納入が増えているのが、ベルトコンベヤーから約30センチの高さの位置につり下げた磁石で金属を吸着して選別する装置(130万円)。被災家屋の木造部材を粉碎した後、鉄くずと木を分け作業のほか、ワイヤ入りの防火ガラスの分別などの用途に、処理業者が多く採用し、昨

震災がれき処理で受注増

年の販売台数は前年より2割以上増えた。

加藤嘉幸社長は1989年、制御盤など産業機械向け部品の製造を自営で始めた。バブル経済の崩壊で不安定になった下請けからの脱却を目指していた96年、上田市で環境機器を製造していた企業が倒産し、そこで働いていた社員数人を迎え入れてエーイーエムを設立した。

当初は他メーカーの製品をOEM(相手先ブランドによる生産)供給していたが、数年で自社販売だけに転換した。制御盤製造の技術を生かして内製化を進め、収益を高めている。

これまでに開発した装置は30種類以上。発注元の要望に応じた構造に改良して納入する。加藤社長は「難しい要求も多いが、可能な限り低価格で応えていきたい」と強調。今後は、東京電力福島第一原発事故に対応し、土壌の除染を目的にした装置などの開発を進める方針だ。

経営関連セミナー ネットで無料配信

県商工会連合会 会員向けに

県商工会連合会(長野市) 接客や労務管理、融資などの

一企画などを手掛けるブレーン(東京の子会社と契約)、商工会ごとにサービス利用に必要なIDを交付する。会員はサイトにアクセスしてIDを入力し、興味あるセミナーを選ぶ。

融資先の成長 責務支援へ

各商工会の経営指導員がそれぞれに会員に合ったセミナーを選んで紹介するなどして利用を促す。同課は「PRに力を入れて利用件数を増やしていきたい」としている。

今回の計画について同行は「財務改善だけでなく、企業の発展に向け、より踏み込んだ支援に取り組む」(同部)と説明。医療・福祉、環境などの成長分野を例示し、同行が持つ研究機関などのネットワークを活用するといったほか、グローバル化への対応で海外の銀行との連携拡充を進めるとした。

前回計画で示した五つの数値目標は3月末時点ですべて達成した。金融再生法ベースの不良債権比率は「5・0%以下」との目標に対して、すでに公表している昨年12月末



☆エプソンが液晶パネル搭載開発用「評価ボード」 セイコーエプソン(諏訪市) 日、自動化機械や医療機器など小型の液晶パネル付きの機器を